

## 放射能泉研究所の沿革と機構

岡山醫科大學に溫泉研究所を設置しようという計劃がたてられたのは昭和8年のことであつた。地元三朝村の寄附を得て昭和12年度には放射能泉研究所の前身である岡山醫科大學三朝溫泉療養所の豫算が通過し、昭和14年7月28日には開所の運びとなつた。當時の學長は田村於兔博士で初代の療養所長には淺越嘉威博士が就任、療養所の機構は助教授1、助手2、書記、藥劑手各1の構成であつた。第二次世界大戰にあたり療養所の充實は人的にも物的にも困難をきわめたが、漸次病牀を増して45とし、研究室も整備せられるに至り、昭和18年11月官制改正により岡山醫科大學放射能泉研究所に改組せられた。所長は當時の岡山大學長清水多榮博士の兼任で、教授1、助教授1、助手3に定員が増加せられた。

しかるに人員充足をみぬ内に所員相ついで應召、三朝における診療並に研究は殆ど中絶の状態に陥入り、昭和19年3月より昭和21年2月末日に至るまで岡大關正次、北山加一郎兩教授の所員兼任により溫泉研究を維持する状態で、昭和20年3月吳海軍病院三朝分院の設置と共に研究所施設の半以上を軍の使用にゆだねるの止むなきに至つた。

昭和20年11月海軍病院は閉鎖せられたが所員が充足せられたのは昭和21年7月のことである。

以來上記の定員を以て内科、外科の兩部に分れ、溫泉研究と診療を行つてきたが、昭和24年1月懸案であつた溫泉化學の官制が公布せられ、教授1、助教授1、助手3の定員が新に増加せられた。之により我國で始めて同一溫泉研究所内で醫學、化學兩部門の協同研究が行われる態勢ができたのである。昭和24年9月よりは産婦人科を新設、溫泉研究における此の方面の空隙をみたすべく努力中である。

### 規 模

敷地面積 3524 坪， 建坪 743 坪， 病室 24 (病牀 50)， 使用源泉 2

職員は事務、看護婦等を含めて 48 (内直接研究に従事するもの 12)

各部の主任は	内 科	大 島 良 雄
	外 科	横 田 浩
	産婦人科	田 中 良 憲
	溫泉化學 (兼任)	黒 田 和 夫 (東大理學部助教授)
		(齊 藤 信 房) (全)

である。

從來使用中の源泉はラドン含有量に於ても、湧出量に於ても不十分であつたので昭和 25 年 3 月三朝の代表的源泉を有する村役場を買収し、ここに研究所分室を設置することになった。温泉化学研究室も昭和 25 年度に於て増築せられる豫定である。

昭和 21 年 4 月 1 日勅令第 206 號官立大學官制第 16 條に“放射能泉研究所は放射能泉に關する學理及びその應用の研究を掌る”と規定せられている。